



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2024～2025年度 RI会長 ステファニーA.アーチック
RIテーマ ロータリーのマジック

クラブテーマ「ロータリーの理解を深め、地域社会にロータリーのマジックを広めよう」

会長 仲原実圭 幹事 原 兄多

第1596回例会
2025. 3. 7(金)晴

司会：高村勝則君

ロータリーソング「奉仕の理想」 指揮：杉山寿美子君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 仲原実圭君

3月2日の日曜日に三島市の商工会議所(YEG)の主催する‘熱狂フェス’に参加させていただきました。せせらぎ三島は物販用のブースを1つ頂き、そちらで今回参加いただいた日本大学国際関係学部の生徒さんはバオパブオイル・田方農業高校の学生さんは手作りのジャム、クッキー、お皿をそして国際交流協会さんはエコバックを販売しました。売上金については、それぞれの寄付や活動費に充てる形となります。青少年をはじめ商工会の方々や地域の方々とも触れ合えたことに参加いただいた学生さんと交流協会の方々はとても楽しそうでした。地域の方々との交流の場としてとても素晴らしい一日を過ごさせて頂きました。YEGの成川会長はじめ会員スタッフの皆様ありがとうございました。

3月のロータリー活動強化月間のテーマは‘水と衛生’です。

ここで質問です。地球上で水道水を飲める国は何か国くらいあるかご存知の方いらっしゃいますか？諸説ありますが、「国土全体において水道水を安全に飲める国」は世界に15か国しかありません。フィンランド、スウェーデン、アイスランド、アイルランド、ドイツ、オーストリア、スイス、クロアチア、スロベニア、アラブ首長国連邦、南アフリカ共和国、モザンビーク、オーストラリア、ニュージーランド、そして日本です。日本は水資源が豊富な国なのです。日本人は「水と安全はタダ」と当たり前にも思っていますが、世界の多くの国ではそうではありません。日本列島が自然から与えられた「土台」なのであり、これは感謝すべきことなのです。好みの問題ですが、ガロンよりも高いペットボトルの水なんて、本来は買わなくてもいいのです。それでは本年度の国際奉仕カンボジアのカンダール州がどのような水と衛生事情化をご紹介します。このような調査は毎年‘水と衛生’事業を行う為に行っている調査です。

【現在の水質による感染症の有無】

カンボジアでは未だ、340万人が清潔な水を飲むことができず、5人のうち2人(600万人)は適切なトイレを使えないと言われている。農村部では10人のうち6人が適切なトイレを使えないのが現状である。ユニセフの2018年の報告書によると、2016年のカンボジアの新生児出生数約30万人で新生児出生後の死亡は5,248人で、そのうち下痢による死亡は672人(13%)、5歳未満の子どもの下痢による死亡は692人(6%)であった。水による感染症として、急性の下痢を起こす疾患で、治療しなければ数時間で死に至ることもあるコレラ。汚染された水や氷などを口にする感染し、血便や腹痛といった症状が起こるアメーバ赤痢。チフス菌が原因の感染症で、感染者の排泄物に汚染された水や食べ物を口にする感染する腸チフス。汚染された水・食品を介して経口的に感染する細菌性胃腸炎。汚染された水や土壌と接触することで、傷口や粘膜から感染する経皮感染と、汚染された水や食品を飲食することで感染する経口感染するレプトスピラ症など。農村部では医療設備が整っていない中、このような感染症を患った場合、幼い子どもにとっては生死を分けることになる。

【地質】

カンボジアは、国土の大半がメコン川が形成する広大な沖積平野からなる。北東のタイ国境にダムレック山地、南東のベトナム国境に高原地

帯がある。南西部はシヤム湾に面し、西部には東南アジア最大の淡水湖・トンレサップ湖がある。熱帯モンスーン気候で、11～4月は北東モンスーンによる乾季、5～10月は南西モンスーンによる雨季である。

カンダール州はメコン川の両岸に広がる沖積平野からなり、表層を沖積層が覆い、その下に厚い洪積層(第四紀帯水層)が分布する。基盤岩の深度は最大、200mである。地下水は、主に洪積層(第四紀帯水層)に含まれている。地下水は浅く、地表から1メートル程度であるが、水位の季節変動幅は2m～6mにも達する。帯水層は洪積層(第四紀帯水層)中の砂層や礫層であるが、北西部の基盤岩の浅い地域では基盤岩の亀裂部や風化帯が帯水層となっている。カンダール州では、手掘りの浅井戸が多く掘られているが、濁って大腸菌により汚染されているものが多く、地下水位の季節変動が大きい。ため、乾期にはほとんどの井戸が涸れてしまう。井戸の掘削深度としては、第四紀帯水層の場合は深度50mから60m以内に砂層や礫層が分布することから、60m程度であり、基盤岩帯水層の場合は、粘土層のかぶり厚さが10mから50mであることから、50mから70m程度である。ただし、第四紀帯水層の粘土分が多く厚い場合は、その下の基盤岩を帯水層とせざるを得ず、そのような場合は井戸掘削深度が100mを超える場合も想定される。(JICA報告書より抜粋)

【小学校の水質検査の結果と周辺の水質】

校長先生の聞き取りにより、過去にヒ素が検出されたとの報告を受けた。また文献によると、2001年からMRD(Ministry of Rural Development)、MIME(Ministry of Industry Mines and Energy)、WHO(World Health Organization)による小規模の地下水のヒ素汚染に関する調査が始まった。2005年には、メコン川下流域に位置するカンダール州、コンボンチャム州、コンボンチュナン州、コンボトム州、クラチェ州、プレイベン州が深刻なヒ素汚染地域であることが明らかになった。そして、現地の政府機関や大学の先行調査により、深刻なヒ素汚染地域として、メコン川下流域に位置しているカンダール州、プレイベン州、コンボンチャム州が挙げられた。2004年に出されたUNICEFのArsenic Contamination of Groundwater in Cambodia (カンボジアにおける地下水のヒ素汚染)によると、汚染率が最も高かったカンダール州では、46%の井戸が基準値の0.05mg/lを超えていたと記載されている。ヒ素に汚染されているのは、メコン川、バッサク川、トンレサップ川と洪水平野内の小河川に接する地域で、現代あるいは完新世の堆積物の中で起きている。カンダール州のある村は汚染が最も深刻と言われ、ここでは2006年に村にある100の井戸の水質調査を実施し、結果80の井戸でWHOの基準を40～50倍超えるヒ素汚染があることが明らかになった。村人はこれらの井戸水を飲用水、料理用水、シャワー等の生活水として利用しており、村人のうち300人(ほぼ全員)に症状があり、4人はすでに死亡しているとの報告があがっている。カンボジア国内でヒ素濃度が最も高いのが40メートル付近の井戸との情報もある。今回の井戸ではカンダール州の地質を考慮し、60～80メートル付近まで掘削し、水を汲み上げる。その後、水質検査をし、ヒ素が検出された場合は、日本製のヒ素除去装置を設置する予定である。

今回の井戸水からのヒ素を長期的に除去する能力を保つため要領の大きい装置をさらに設置する予定です。また、定期的に水質検査を行い飲料水に適した水を供給していきます。

(協力:カンボジア政府、PBバイオテック)

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

成川尊裕さん(新井君のゲスト)

出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	26/39	66.67%	34/39	87.18%
今回	33/39	84.62%	会員総数	41名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

伊丹君、加藤(貴)君、杉橋君、土屋君、成田君、吉村君

(*出席免除会員の欠席者 片野君 山本君)

おめでとー

会員誕生日 3月5日 渡邊仁也君

入会記念日 3月3日 三輪暁生君



卓話

新井博薫君

新井博薫(ヒロシゲ)と申します。年齢は47歳です。卓話ということで自分の生い立ちや、考え方を少しお話しできたらと思います。私は三島市に住んでいますが長泉町で生まれ高校生まで生活していました。そして人生のターニングポイントはいつなのかと考えましたが、30歳で入会した青年会議所(JC)での活動の約10年間が意識変革をした時だったと思います。JCに入会する前まで自分の趣味、自分の時間と自分の事ばかり考えて生活していました。JC活動では「修練、奉仕、友情」と自分のことよりも誰かの為に活動を行っていく事を教わりまた、伝えていきました。今思えば、それが当たり前のように頭の中の考え方が変わっていったと感じます。38歳の時にお世話になっている先輩から商工会議所(YEG)に入会を勧められて現在に至ります。YEGでは、まちづくりを中心に活動を行いメンバーと友情を深めています。ロータリーに入会をして半年になります。JC、YEGには卒業がありますがロータリーにはありません。ロータリー活動が人生の半世紀を支えていたと胸を張って言えるように頑張る活動をしていきたいと思えます。JC活動の研修で聞いた自分の考え方が変わった一つのお話をさせていただきます。レンガ職人のお話です。知っている方もいるかと思いますがどうぞよろしくお話ししたいと思います。世界中をまわっている旅人が、ある町外れの一本道を歩いていると、一人の男が道の脇で難しい顔をしてレンガを積みこんでいた。旅人はその男のそばに立ち止まって、「ここでいったい何をしているのですか?」と尋ねた。「何って、見ればわかるだろう。レンガ積みで決まっているのだ。朝から晩まで、俺はここでレンガを積みまなきゃいけないのだ。あんた達にはわからないだろうけど、暑い日も寒い日も、風の強い日も、日がな一日レンガ積みさ。腰は痛くなるし、手はこのとおろし男は自らのひび割れた汚れた両手を差し出して見せた。「なんで、こんなことばかりしなければならぬのか、まったくついてないね。もっと気楽にやっている奴らがいっぱいいるというのに…」旅人は、その男に慰めの言葉を残して、歩き続けた。もう少し歩くと、一生懸命レンガを積みこんでいる別の男に出会った。先ほどの男のように、辛そうには見えなかった。旅人は尋ねた。「ここでいったい何をしているのですか?」「俺はね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これが俺の仕事でね。」「大変ですね」旅人はいたわりの言葉をかけた。「なんてことおないよ。この仕事のおかげで俺は家族を養っていきけるんだ。ここでは、家族を養っていく仕事を見つけるのが大変なんだ。俺なんて、ここでこうやって仕事があるから家族全員が食べていくことに困らない。大変だなんていってたら、パチがあたるよ」旅人は、男に励まし言葉を残して、歩き続けた。また、もう少し歩くと、別の男が活き活きと楽しそうにレンガを積みこんでいるのに出くわした。「ここでいったい何をしているのですか?」旅人は興味深く尋ねた。「ああ、俺達のことかい?俺たちは、歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ!」「大変ですね」旅人はいたわりの言葉をかけた。「とんでもない。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだぜ!素晴らしいだろう!」旅人は、その男にお礼の言葉を残して、また元気いっぱい歩き続けた。以上となります。仕事ではなく自分はいくまでも奉仕活動と置き換えてみました。何のための奉仕なのか、誰かの為になっているのか、自分のやっていることに誇りが持てるのか。色々と考えさせられた記憶があります。ロータリー活動でも当然のように、誰かの為に奉仕活動を行っていきたく思います。「買う身になって売り、使う身になって作り、受け身になってサービスをする」自分のロータリー活動が残り50数年ある、いや残り50数年しか奉仕活動ができないんだと思いつつながら卓話を終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

※紙面の都合でスマイルと理事会報告は次号に掲載します

幹事報告

幹事 原兄多君

1. 本日、例会後に理事会を開催します。
 細則・内規の変更についてポケットに配布しましたのでご意見等ある方はお申し出ください
 地区からの委嘱状が届いております